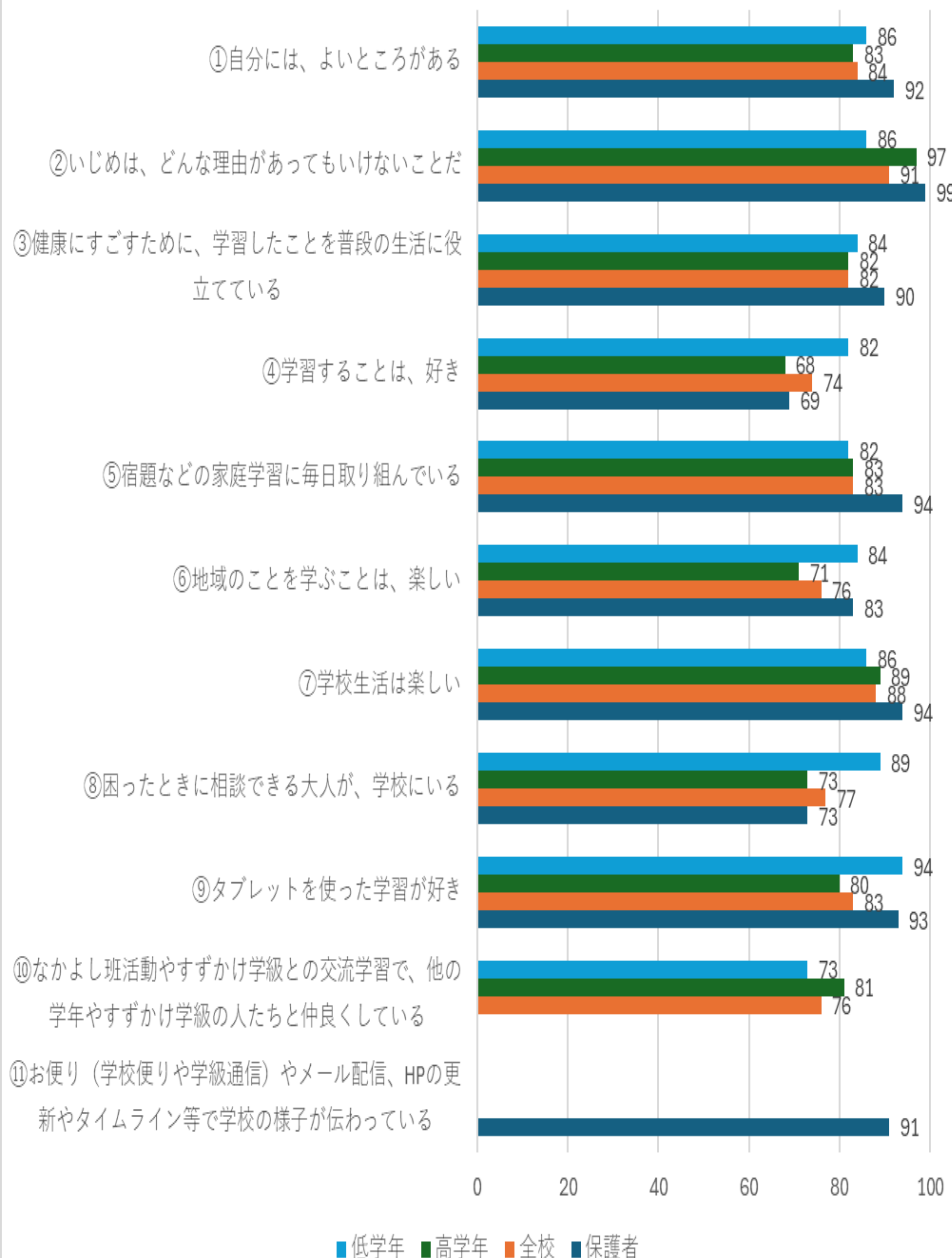


令和6年度学校評価結果のお知らせ

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本校では、教育活動の成果指標の一つとして、全校児童及び保護者を対象に学校評価調査を実施しています。令和6年度の結果と分析について、次の通りお知らせします。この結果を、今後の教育活動にいかしていきます。（今年度中の改善及び次年度計画への反映）

令和6年度 学校評価結果
東久留米市立第三小学校



全体を通じて、低学年の方が高学年よりも肯定的回答の割合が高い傾向があります。

（一般的傾向と同様）

②「いじめ」に関する項目や、⑩「交流学習」に関する項目では、高学年の方が肯定的回答の割合が高くなっており、家庭や地域、学校教育による取組の成果が出ています。

保護者と児童の結果との間に乖離がある項目に、⑤「家庭学習」と⑨「タブレット」についてがあります。家庭学習は、学習の習慣付けや学習内容の定着に向けて行うものです。学校と家庭とで取組内容を共有し、連携して支援していきます。タブレットは、高学年では積極的に使っていく段階から、効果的な場面で活用する段階に進んでいます。個別に取組方法を選択して学習する場合もあります。

令和6年度 学校評価結果 東久留米市立第三小学校

質問	肯定的回答の割合（％）			
	低学年	高学年	全校	保護者
①自分には、よいところがある	86	83	84	92
②いじめは、どんな理由があってもいけないことだ	86	97	91	99
③健康に過ごすために、学習したことを普段の生活に役立てている	84	82	82	90
④学習することは、好き	82	68	74	69
⑤宿題などの家庭学習に毎日取り組んでいる	82	83	83	94
⑥地域のことを学ぶことは、楽しい	84	71	76	83
⑦学校生活は楽しい	86	89	88	94
⑧困ったときに相談できる大人が、学校にいる	89	73	77	73
⑨タブレットを使った学習が好き	94	80	83	93
⑩なかよし班活動やすずかけ学級との交流学习で、他の学年やすずかけ学級の人たちと仲良くしている	73	81	76	
⑪お便り（学校便りや学級通信）やメール配信、HPの更新やタイムライン等で学校の様子が伝わっている				91

【課題】

●⑧「困ったときに相談できる大人が、学校にいる」

全校児童及び保護者の肯定的回答の割合が8割を下回っています。学校では、全教職員で一人一人の子供たちをサポートしていきます。「先生に自分から相談できない。」ときには、保護者の方に学校との橋渡しをしていただくことで、相談がしやすくなることもあります。お子さんにとって（保護者の方にとっても）相談できる相手がいることは、安心して過ごしていくためにとても重要です。学校に限らず、必要に応じて地域等の相談機関も活用してください。

●④「学習することは、好き」

肯定的回答が全校児童で74％、高学年は7割を下回っています。保護者による評価も7割を下回っています。学校では、「主体的な学び」の充実を目指した授業研究をはじめとして、様々な授業改善に取り組んでいます。しかし、3割以上の児童及び保護者にとって、学習することが肯定的にとらえられていないことは、重大な課題として真摯に受け止めなければなりません。今一度、実態を細かく分析するとともに現在の取組を精査し、改善を図っていきます。

●⑩「なかよし班活動やすずかけ学級との交流学习で、他の学年やすずかけ学級の人たちと仲良くしている。」

全校児童の肯定的回答が8割を下回っています。学校では、なかよし班活動やすずかけ学級との交流学习を年間を通して計画的に実施しています。しかし、子供たちにとっては十分とは言えないようです。これまでの活動に加え、子供たちの主体的なかかわりを促進するような取組を年間計画に組み込んでいくことで、異学年交流等の充実を図っていきます。

●⑦「学校生活は楽しい」

全校児童の肯定的回答が88％です。約9割と考えると、決して低い数値ではありません。しかし、約1割の児童は「楽しい」と思っていないことに、しっかりと向き合わなければなりません。学校は、一人一人の「楽しい」と思えない理由と向き合い、教育活動を改善していきます。保護者及び地域の皆様、お気づきの点があれば学校までご意見等をお寄せください。